

# 韓国ドラマ

私はNetflixでたまたま韓国ドラマ「梨泰院クラス」を観て、韓国ドラマに嵌まってしまった。ただ多くの年配者のように韓国ドラマの「時代物」は見えていない。見るのは現代の韓国を舞台にしたドラマだけである。

最初は日本と韓国の違いに目がいていたが、多くの韓国ドラマを観るうちに、韓国の風景や人が日常になり、異国のドラマという感じがなくなっていった。

感銘を受けたドラマのいくつかを、ネットに出ている感想も含めて記録に残す。

## 1 何回も観たい韓国ドラマ

何回も繰り返し観たくなる韓国ドラマをあげるとすると、次の6つをあげることができる。「ある春の夜に」(ハン・ジミン、チョン・ヘイン主演)、「よくおごってくれる綺麗なお姉さん」(ソン・イェジン、チョン・ヘイン主演)、「マイ・ディア・ミスター ; 私のおじさん」(パク・ドンフン、イ・ジアン主演)、「梨泰院クラス」(パク・ソジュン、キム・ダム主演)、「RUN ON ; それでも僕らは走り続ける」(イム・シワン、シン・セギョン主演)、「秘密の森」(チョ・スンウ、ペ・ドゥナ主演)である。

何回も観てしまうのは、それだけロスがあるのかもしれない。見るたびにさわやかな気分になったり、癒されたりする。(「秘密の森」は少し違うが) (2021年10月27日)

## 2 韓国ドラマ「ある春の夜に」(2019)

Netflixで放映されている韓国ドラマ「ある春の夜に」全15話を見終わった。少し前に見た「梨泰院クラス」とはまた別の意味で、よくできたドラマだなと思った。今、韓国のドラマは、皆このようレベルのものなのであろうか。日本で今このレベルのテレビドラマは作られていないのではないか。

韓国の若い人(30歳代)が主人公のドラマで、日本では今年の7月にNetflixで放映されている。中身は、韓国の若い人の恋愛ドラマで、恋愛の障壁になるライバルや家族関係などさまざまあり、二人の心も揺れ動き、見ていてハラハラする。ヒロインの韓国女性(ハン・ジミン主演)が、知的で、勝ち気でありながら、心優しいために悩み、相手の男性(チョン・ヘイン主演)もとてもさわやかな優しい青年である。見ていて、二人の関係がほほえましく、応援したくなる。演技が自然で、ドラマの見ているというよりは、知り合いの若いカップルを見ているような気になる。

惹かれあった二人の会話が、スリリングで面白い。日本人の会話とは何か違うような気が

する。そこが韓国ドラマの面白さなのかもしれない。ただ、何が違うのかは明確にわからない。表面的などうでもいい会話というものが少ない。一つ一つの言葉に皆深い意味がある。発した言葉で、相手が驚くと、それは「冗談」と打ち消すことがしばしばある。そのようなことでシリアスなことをさりげなく言うことも多い。ホンネで話すので、その発せられる言葉で、相手が傷つき突然怒りだし、二人の関係が危うくこともしばしばある。とにかく会話に緊迫感がある。でも相手が好きだということが、言葉や表情から伝わってくる。それだけ演技がうまいのかもしれない。

韓国の若い人にとって恋愛は大きな価値で、運命の人との出会いという言葉もよく出てくる。親世代の結婚生活はあまりいいものとして描かれていない。今の韓国でも、結婚には親の許可が絶対必要のようで、結婚の許可を親から得るのが大きなテーマになっている。

バックの音楽はたくさん OST が流れる「梨泰院クラス」とは違って、「ある春の夜に」は、数少ない同じ主題歌が何度も流れる。(2020年5月23日)

### 3 韓国ドラマ「よくおごってくれる綺麗なお姉さん」(2018)

今Netflixで1番人気の韓国ドラマ「愛の不時着」(2019-20)のヒロインを演じているソン・イエジンが、その前に主演しているドラマ「よくおごってくれる綺麗なお姉さん」(2018)を、Netflixでみた。これをみたのは、ソン・イエジンが主演しているという理由と、先にみた「ある春の夜に」(2019)と同じ演出家のアン・パクソンの作品ということによる。

主演のソン・イエジンは、「愛の不時着」のヒットで、今世界で一番輝いている女優かもしれない。1882年生まれで30代半ばである。このドラマは、年下の恋人(「ある春の夜に」のチョン・ヘインが演じている、1988年生まれ、31歳)との恋愛が主要なテーマである。ここでの二人の恋愛を阻むものは、周囲の家族で、とりわけヒロインの母親の家柄や学歴や職業へのこだわりは強烈で、見ている方は癡癡する。このドラマは、恋愛への純粋な思い(「その人と少しでもいっしょにいたい」や「その人に為なら何でもする」)を、思い出させるものであり、韓流ドラマの主流を行くもの1つなのであろう。ネットから、感想をピックアップしておく。

「前半幸せすぎて、色んな韓ドラ見てきた中でも一番幸せになった。ソン・イエジンの演技が上手すぎて、感情移入してしまった」「ジュニみたいな彼氏最高だ。こんなに愛されるジナが羨ましいって感情移入できるのも、ソン・イエジンの演技が素晴らしいってことかも知れない」「私はこのドラマ大好きです。素敵なお愛だなんて素直に思いました。2人の本当のお愛を見てドキドキしたし、ああこんな風に愛されたり、愛してみたいなって思うドラマでした」「終始ジナのお母さんに腹立ちすぎてイライラしましたが、それぐらい出演者の方たちの演技が上手くて自然で面白かったです」「前半に沢山楽しい部分あったのに、後半の

インパクトが強すぎ。お母さん怖すぎ。恐怖って感じ」「後半から大号泣。ジナには、ジュニが必要でジュニには、ジナが必要。沢山キュンキュンした。めっちゃおススメ。早く2人とも結婚して!」「ostも古風?な感じで珍しい」

#### 4 韓国ドラマ 「マイ・ディア・ミスター〜私のおじさん〜」(2018)

全16話を、Netflixで見終わった。見終わるのに1ヵ月くらいはかかったように思う。人に薦められて見はじめたが、最初の方は何か暗く、韓国の庶民階層の暗い生活がいくつも、脈絡もなく描かれているようで訳が分からず、かなり早い回で見るのをやめてしまった。その後断続的に見て、後半になるとあまりにドラマチックで次の展開が読めず、ハラハラドキドキしながら見た。

人生に敗れた人々が酒を一緒に飲み、傷を嘗め合いながら何とか生きていくもどかしい場面も多くありながら、何か温まるストーリーであった。韓国では家族の繋がりが強い、兄弟がこんなに仲がいいのか、同郷の絆も強い、学校の先輩後輩関係は後まで響くなど、日本との違いも知った。このドラマは、中心の二人だけでなく、脇役の人たちの人生も味わい深い。特に、ヒロインも含め個性的で魅力的な4人の女性が登場しているのもいい。

このドラマの人間関係は、どの関係も皆ギクシャクしている。それは、現代社会の人間関係がそれだけ難しくなっているということの表れでもある。唯一安定しているのは、生育家族(生まれ育った家族)の人間関係である。韓国の伝統的な家族主義的な関係が結局基本にあるように描かれている。子どもが大きくなっても母親が子どもを思い、子どもも母親を一番大切にする。兄弟は喧嘩しながらもお互いを気遣い、兄弟の幸せや悲しみを共有する。生育家族との関係が強すぎて、主人公(ドンフン)の夫婦関係はうまくいかない(奥さんは主人公が最も嫌う男と浮気までする)。

主人公(ドンフン)の兄(サンフン)は職場を首になり、家で酒ばかり飲み、娘の結婚の御祝儀をねこばばまでするようになり、奥さんに愛想をつかされる。弟(ギフン)は、映画監督として一度脚光を浴びたものの才能のなさに気付き、主演女優にその責任を押し付け、その罪悪感とその女優への愛情と後ろめたさから、慕ってくれる彼女の気持ちを受けとめられない。天才肌の友人は、理想的な近代家族の限界を感じ、相思相愛だった女性と別れ、僧侶になってしまう。

主人公とヒロイン(イ・ジアン)の関係は、上司と部下、叔父と姪(父と娘)、援助者と被援助者、詐欺の標的、恋人関係、というさまざまな要素を内包しながら動的に展開し、最後に行きつくところはどこなのかかわからず、ハラハラさせられる。

現代は、伝統的社会の安定した家族関係、近代社会の友愛を基礎にて成立する核家族ではやっていけなくて、さまざまな人間関係が交錯する中で、皆苦しみながらも、過去は「どうってことない」と目をつぶり、「ファイト」と未来に向けて歩く(時に「かけっこ」もする)

生き方（「リジリエンス」な生き方）をする時なのであろう。そのようなことを考えさせられるドラマである。

ネットから感想を少し、転載しておく。私と同じような感想が綴られている。

「とても良いドラマでした。最初は良さがわかりませんでした、それぞれの心の動きや相手に対する気持ちの変化が見えて来て、どんどん嵌まって行くドラマです。本筋を支えるそれぞれの出来事も涙と笑いが満載で楽しめます。とてもお薦めのドラマです」「あまりにも重い内容に始めは戸惑いましたが、見ていくうちにすっかりはまってしまいました」「辛い人生をいきる女性とその女性を取り巻く人々。目を背けたくなるようなシリアスな場面もあるけれど、人生について考えさせられる時間を与えてくれました」「見終わってみれば、人情物語であたたかな気持ちになれます。優しい人間に癒される、そんなドラマです。」

（2020年12月26日、29日）

## 5 韓国ドラマ「梨泰院クラス」(2020)

全16話を見終わった。10話以降は、1日に2~3話を続けてみて、今日は少し梨泰院クラスロス状態。16話も見ると、その世界や登場人物が日常的になり、ドラマが終わってしまうとその喪失感は大きい。韓国ドラマながら、共感できる部分が多く、日韓の共通点を感じた。

ネットでも2020年のお薦めの韓国ドラマでも「梨泰院クラス」があがっている。

<面白すぎる…！と話題沸騰！いわゆる“韓国ドラマ”っぽい恋愛要素は少ないものの、主人公セロイの下克上ストーリーに共感してドラマにハマる人がどんどん増えている本作。特に、これまであまり韓ドラを観ていなかった人や男性にもファンが多いようです。><なんといっても音楽とのマッチングが素晴らしいのも本作の魅力。「あのOSTが頭から離れない…！」という人も続出しているんだとか。また、どんぐりのような髪型ですら似合ってしまうパク・ソジュンのイケメンっぷりにも注目です！>

このドラマに描かれ優位な価値観に関して、感じたことを書いておきたい

- ① 強い信念に基づく一途な行動、困難に立ち向かう果敢な行動、がメインテーマのひとつ。
- ② 仲間（友情、恋愛）の大切さがもうひとつのテーマ。
- ③ ①と②の組み合わせで人間の4類型ができる。（A—信念・仲間、B—信念のみ C—仲間のみ、D—信念も仲間もなし＝損得と利己的行動。）主人公のセロイとその仲間はA類型が多く、敵役はD類型が多い。
- ④ 中で描かれている恋愛関係は、一歩方向（片思い）が多い（グンス→イソ、イソ→セロイ、セロイ→スマーグオン）。ただその片思いは秘めているのではなく、はっきり公言され、その成就に向かう努力が評価される（失恋で泣く様子も激しいが）。

- ⑤ 韓国は学歴社会といわれるが、主人公のセロイは中卒・高校中退で、ヒロイン・イソも超優秀ながら高卒である。学歴に価値は置かれていない。強い信念と行動が評価されている。セロイの初恋の相手スアは超美人で、大卒で控え目な女性だが、信念が弱く、そのような女性は韓国では生きにくい。
- ⑥ 母親はほとんど出てこず、いても影響力は小さい。強い父親が求められていて、その父親の信念に基づく行動（背中）が心の支えという息子が多い。信義や仲間を大切にしない父親からは、問題児が育っていると描かれている？
- ⑦ 登場人物の日常に交される会話は、ひとつ一つの言葉は短い、ホンネ（本質）をズバリと発していて、緊迫感がある。相手の言葉に「エ?!」と驚く場面が多い（毎回、数場面あるのではないか）。主人公セロイをめぐるヒロイン・イソと初恋相手のスアの会話のレベル（緊迫感）は、漱石の「明暗」の中の、二人の女性の会話のそれに匹敵する高さと感じた。
- ⑧ 主役のセロイはなぜ初恋で10年も思い続けてきた心優しいスマを振って、事業（復讐）パートナーのイソの方を選んだのか。控え目の女性（スマ）より、自分の人生を自分の力で切り開き好きな男を守る積極的な女性（イソ）の方を選択したのは、それが自分の生き方に合っているからであろうか。しかし、まだ釈然としない部分も残る。それは、初恋同士の二人の心情の中にもあり、二人とも前に向かって進む以上は、別れは仕方がないと思いながら、そのような選択しかできない生きることの哀しみを感じているのではないか。その哀しみがバックの音楽（OST）があらわしているように思う。
- ⑨ 「梨泰院クラス」のOSTの4番目のバンドと6番目の男の子の歌が特に印象的。8番目の女の子の失恋の歌もいい。k-ポップはこれまで聴いたことがないので、有名な歌手やバンドなのかどうかかわからないが、こんなレベルの音楽が韓国には多いとすると、音楽的に日本の先を行っているなど思う。（2020年5月24日）

## 7 韓国ドラマ「秘密の森」(2017)

「秘密の森」の第1シリーズ16話を見終わった。見始めて4日ほどで16話まで見たので、1日に3～5話ほど見たことになる。新型コロナの感染拡大と大雨の天気のため、どこにも行けず、ドラマでも見るしかなかったせいもある。

「感情がない孤独に生きる男性検事が、情深い女性刑事と出会い真実暴く！韓国で大人気ドラマ『シグナル』に続く、人気刑事ドラマ！」と説明がある。これまで、私が多く見てきた韓国ドラマと少し感じが違った。

殺人事件や汚職事件が絡むサスペンスドラマであり、娯楽性が高く、そこに何か感情移入し、生き方のモデルを見出そうとするものではないのかもしれない。しかし何か不思議な魅力のあるドラマである。

脚本が秀抜で、伏線が周到に用意されているらしいが、最初はそれになかなか気が付かない。さらに韓国名がわからないと、複雑に絡み合う人間関係がなかなか理解できない。韓国ドラマ「秘密の森」の「シリーズ2は、シリーズ1以上にストーリーは複雑です」とそのドラマを薦めてくれた知人から告げられている。(2021年8月16日)

## 8 韓国ドラマ「愛の不時着」(2019)

韓国ドラマ「愛の不時着」全16話をNetflixで観た。話題のドラマだけあって、よくできたドラマだと思う。ブームを引き起こしたことが納得できる。

ジェンダーの視点からも現代にマッチしているようだ。その分、古いジェンダー意識に囚われている人にはそのよさがわからず、ジェンダー意識の「踏み絵」にもなるドラマのようだ。

ネットで書かれていることを少し書き写しておこう。

「韓流ドラマ今まで見た事なかったけど、初めて愛の不時着を見てはまった。こんなに面白いとは。日本のドラマみたいに視聴者がイライラするシーンがなく、基本的にこうなってほしいと思う方向に物事が動いてくれる。見ていて気持ちいいドラマ」「本当に『人を愛する』とはどういう事かをこれでもかと思わせつけられたドラマでした。両国の関係を考えてと限りなく切なく、でも離れてもそばにいるという二人の愛は限りなく温かい。ただ、リ・ジョンヒョクのような完璧な男性は絶対に居ない！だからこれはファンタジーで、だから何度でも観てしまう。」「最近の韓流ドラマのヒロインは、ひと昔前の可憐で受け身タイプの女性から、男性に頼らず自分の将来を自分の力で切り拓いていく、元気で活発なタイプへと変わってきている。『愛の不時着』のセリも、財閥の令嬢でありながら、自らファッションブランドを立ち上げて成功させたビジネスウーマンであり、愛する男のために命まで投げ出すほど愛に積極的な女性だ」「ヒロインは美しいだけでなく経済的に自立しており、ヒーローを守る強さを持っている。2人の主演俳優が見せる素晴らしい演技力に加え、ジェンダー・ステレオタイプを覆すキャラクターの魅力が、古典的な「愛」をモチーフにしたドラマを格段に面白くしている」「日本でよく見聞きする『弱い女を守ってやる俺』的な、単なるイキリやマッチョな誇示とは別物です。」「このドラマで描かれているのは、強い男が愛する女を守り抜くという、伝統的な性別役割分担に基づく恋愛だけではない。「良質なコンテンツはイデオロギーを超える力を持っている。」「いかに気持ちを伝え、確かめ合い、未来を描けるようになるかという心の動き」「ひと昔前の韓流ドラマのように家柄や親は障害ではなく、絶対的な一線、つまり38度線だけが2人の愛を阻む。ソン・イェジンとヒョンビンと言うキャリアや人気は互角のスターを揃えたキャスティングも含め、『対等さ』を意識したドラマ」「悪役であるセリの義姉たちも、坊っちゃん育ちの夫をコントロールして生きる力が強くて憎めない。北のオンニたちはそれぞれの個性が際立っている」「好きな相手が幸せだっ

たらそれでいいという、究極の尊い気持ち」「ユン・セリ役を演じたソン・イェジンにまさか神の一手だった。女性視聴者の共感を得られる抜群の演技力と、男性視聴者をテレビの前に釘付けにできる美貌を兼ね備えた女優」「『愛の不時着』は悲劇の「ロミオとジュリエット」になるはずの2人が、愛と知力と財力でサバイブして「織姫と彦星」となる物語」。(2020年7月13日)

## 9 韓国映画『私の頭の中の消しゴム』(2004)

この映画『私の頭の中の消しゴム』(2004年)を、ソン・イェジンが主演というので今回はじめてみた。日本で上映された韓国の興行映画のうち、歴代2位の記録を持つ映画である。当時全く知らなかった。よくできた映画だと思った。アカデミー賞映画『パラサイト』(2019年)より、出来はいいのではないかと感じた。ネットの解説を転載しておく。

ヒロインは、ドラマ『愛の不時着』で再びの全盛期を迎えているソン・イェジン。2003年にドラマ『夏の香り』や、映画『ラブストーリー』で人気を博した彼女は、その翌年に本作に出演。不倫に涙して化粧がドロドロに落ちた顔から、お嬢様らしい品のある表情、チョルスの前で魅せる満面の笑顔、病気を知っての絶望に陥った表情、そして記憶を失くした虚無の表情までを繊細に表現し、“メロドラマの女王”との称号を得た。一方、チョルス役のチョン・ウソンは、ドラマには滅多に出演しない根っからの映画俳優。アウトローのイメージで、男くさい作品に出演することが多かったが、本作ではそのイメージを活かしつつもラブストーリーということで女性ファンが倍増。(安部裕子)(2020年8月11日)

## 10 韓国映画「ザ・ネゴシエーション」(2018年)

ヒットした韓国ドラマ「愛の不時着」を見て、ヒロインのソン・イェジンのファンになった人も多いのではないかと。ウィキペディア(Wikipedia)で調べると、(データは完全ではないと書かれているが)、ソン・イェジンは、1882年1月生まれ。映画に20本、ドラマに13本出演している(私がこれまでに見たのは映画2本、ドラマ3本である。どれも面白かった)

ソン・イェジンは「清純で、美しいというイメージだったが、意外にもさばさばしていて気さくで、コミカルなシーンにも意欲的で、自分の意見をハキハキ伝える面があるかと思うと、少し天然な部分もあって、そういう姿がとても魅力的だった」という監督評もある。

最近、ネットフリックスでソン・イェジン主演の映画「ザ・ネゴシエーション」(2018年)を見た。ソン・イェジンは、ソウル市警危機交渉班の警部補で、事件現場で犯人との交渉役を演じている。通常そのようなネゴシエーターは理性的で情には動かされない人になると思うが、ソン・イェジンの演じる交渉人は、情に厚い韓国の人の典型のような性格で、国家や

警察のトップの冷酷な指令には従わず、それで犯人は心動かされる部分はあるが、結果は必ずしも望んだものにならない。

ドラマ「秘密の森」と同様、韓国の公（大企業や警察トップ）と私（情に厚い人間性）が、ぶつかる場面も多く、興味をひかれる。この映画の成功は、ソン・イェジンの天然の人間性と演技力にあり、彼女のよさが十分発揮されていると思う。（相手役は『愛の不時着』で共演したヒョンビン）（2022年3月11日）

## 11 韓国ドラマ「彼女はキレイだった」(2015)

韓国ドラマ「彼女はキレイだった」をNetflixで見始めた。最初「なんか失礼な題だな」と思ったが、ストーリーを知って納得した。女性が「キレイ」ということはどういうことなのかといろいろ考えさせられた。男はキレイな女性に惹かれるのは古今東西普遍的のようだが、それはなぜなのだろう。（女性がイケメンの男子に惹かれることもあるが、男のそれには及ばない）。

第1話のストーリーは次のよう。<（ヒロイン）ヘジンは小学生のころ相思相愛だったソングンがアメリカから帰国するとのメールを受け、（親友）ハリに待ち合わせ場所まで送ってもらう。そこに現れたソングンは肥満児だった過去をみじんも感じさせないイケメンに成長しており、正反対の残念な女性に成長した自分を恥じたヘジンは、（超美人の）ハリに自分の代役を頼み…。>

最近大人気の韓国ドラマ「梨泰院クラス」の中卒で前科者で飲み屋の社長の男ばいヒーローのパク・セロイを演じたパク・ソジュンが、このドラマではアメリカ帰りの育ちがよくカッコいいイケメンを演じていて、最初その育ちの品のよさから同一人物とは思えず、思わずネットで調べてしまった（パク・ソジュンが好きな女性ファンにはたまらないであろう）。

女性が綺麗であると男からちやほやされることが多いが、それに奢れることなく、懸命に生き、いい性格ややさしい心情を保持することは難しいのではないか。その点そうでない女性の方が、努力家でいい性格でやさしい心根の人が多（、と私は思う）。ところが愚かなことに、男は美人の方に惹かれる。

「彼女はキレイだった」のヒロインは、そのことがわかっていて、幼馴染のイケメンに自分の正体を明かせず、超美人の友人に代わりになってもらう。そこに悲しみがないわけではないが、持ち前の元気さと笑いで吹き飛ばすのが、このドラマの魅力である。

もちろん女性が綺麗になるように努力することは、自分の顔や体を素材に美を追求することであり、画家がキャンバスを素材に美を追求するのと変わらないことで、非難されるべきことではない。また男が女性の綺麗さに惹かれるのは、美しい絵や美しいものに惹かれるのと同様で、自然なことであると思う。

## 12 韓国ドラマ「屋根裏のプリンス」を観る (2012)

「前半は抱腹絶倒、後半はサスペンスと涙の連続」というのが一般的の評のよう。私は、見終わるのに 2 週間はかかった。ラブコメとして楽しめばいいドラマのようであるが、シリアスなドラマとしてみると、少しストーリーに無理を感じる。ヒロイン（ヘン・ジミン主演）の自己犠牲や輪廻の考え方に魅かれた。

ヒロインの名前は、プヨン＝パク・ハで、それは蓮の花を意味する。「生きて死に、死んで生きるものは何か？」という謎かけがドラマの中であったが、その答えが蓮の花。蓮の花は咲き終わると朽ちて土にまみえるが、次の花の糧になり生きる。このように蓮の花は自己犠牲に徹し、美しく咲き、哀しく散る。

私は別に輪廻転生を信じるものではないが、このドラマが輪廻転生のドラマであり、その象徴である蓮の花の名前のヒロインの自己犠牲や、七夕の輪廻転生（天の川）や、先日千葉公園で観た蓮の花の美しさが、何か繋がっているように感じ、惹かれるものがあった。

(2020 年 7 月 8 日)

## 13 韓国映画「虐待の証明」(2018)

このところ韓国のドラマばかり見ている。そこで、今度は韓国の映画を見てみようと思い、韓国ドラマ「ある春の夜に」でヒロインを演じていたハン・ジミンが主人公を演じ、第 38 回韓国映画評論家協会賞で主演女優賞を受賞した映画「虐待の証明」(ミス・ペク)を、レンタルして観た。ドラマの紹介や感想は、ネットで次のように書いてあった。

<あらすじー母親から虐待され、捨てられて施設で育ったペク・サンアは、心に傷を抱えたまま生きていた。彼女は荒んだ生活を送り、周囲からは「ミス・ペク」と呼ばれ揶揄されていた。そんなある日の夜、サンアは道路の片隅で震えている少女ジウンと出会う。お腹を空かせたジウンの体は痣だらけで、誰かに虐待を受けているのは明らかだった。目の前の少女と過去の自分とを重ね合わせたサンアは、ジウンに手を差し伸べようとするがー。>

私が見終わった感想は、あまりはっきりしたものではない。いくつかあげると、①テーマは子どもへの虐待で、事実に基づいた映画ということで、決して明るい内容ではなく、気分的には沈んでしまう映画である。②児童虐待が韓国でも日本と同じように社会問題になっていることがわかった。児童虐待をする親は、自分も虐待された経験があるという負の連鎖が示唆されている。警察や児童相談所の対応の遅さやいい加減さは、日本と同じように描かれている。しかし児童虐待の酷さ、警察の取り調べの凄さ（容疑者を殴っている）、刑の重さ（殺人罪が適用される）は、日本より韓国がより強烈のよう感じた。③有名女優のハン・ジミンが、よくここまで、泥だらけの体当たり役を演じるものだと感心した。そしてハン・ジミンらしさも出ていたように思う。④映画としては、韓国らしく、また出演者の演技は

上手で、バックの音楽も沈痛ながらよく、よくできた映画なのであろう。児童虐待を扱っている映画だが、もう少し別の観点からみた方がいいのかもしれないと思った。

韓国人の国民性に関しては、「かなり粗野で、激情型で、しかも情が厚い」という印象がある。それがこの映画「虐待の証明」にはよく現れている。主人公だけでなく、脇役の刑事もその姉も粗暴ながら情が厚く、虐待された子どもを結局は引き取り大事に育てるようになる。韓国は、急速な近代化を果たし、生活様式は近代化し、ドラマ「ある春の夜に」に描かれているように、若い人はおしゃれで人柄もソフィステートされているが、その奥底の心情には、情が厚く激情的なものが存在し、時々それが噴き出すのではないか。日本人もかつてはそうであったが、韓国より先に進んだ近代化で、それが消えていったのでないか。日本でも 1950 年代中頃から 60 年代末に吹き荒れた「大学闘争」の時は、学生がゲバ棒や火炎瓶を持ち、機動隊に立ち向かって行ったり内ゲバで殺し合ったりしていた。そのような激情は現代の日本の若者にはない。そのようなことをこの映画から感じた。

(2020 年 5 月 27 日)

#### 14 韓国映画「パラサイトー半地下の家族」(2019)

今年度のアカデミー賞を受賞した韓国映画「パラサイト」を見た（劇場ではなく、レンタルしてパソコンで）。私の感想はともかく、見た人の評価をネットで見してみた。アカデミー賞を獲得しただけあって、専門家の評価はきわめて高い。一般の人の評価はどうであろうか。

1つのサイトで見ると、だいたい5点満点の5か4の称賛が7割、3の中間が1割、2か1の酷評が2割という割合で、一般の人の評価もおおむね高い。

その中身を見てみると、称賛（4 & 5）は「経済格差を縦の構図を巧みに用いて描いた演出センスに脱帽する。何から何までセンスが良い作品だ」「貧富の差の拡大というグローバルに深刻化する問題を取り上げ、予測のつかない超一級のエンターテインメントとなった」「最初から最後まで引き込まれ、あつという間の2時間。エンディングも最高」。など。

中間（3）は「面白いが、深さ・鋭さには欠ける」。

酷評（1 & 2）は「目で見ただけの映画 何も入ってこなかった！共感する事もなく感情移入する事もなく 考えさせられる事もない」「パラサイトは刺激的ではあるものの素材が調和していない感がある。最終的に富裕層も貧困層も救われず、後味も最悪な映画だった」「評判がよかったから期待してみたけど、本当につまらない作品。色々な感性があると思うがこれを面白いと評価する人が信じられない。時間の無駄。アカデミー賞もたいしたことない。」などである。

全体では称賛が多いが、そうでない評価も少なからずあり、同じ映画でも見る人によって評価が違ってくる。 (2020 年 6 月 26 日)

## 15 日本のテレビドラマ 「六本木クラス」について

第4次の韓国ドラマブームを巻き起こした原動力になった3作品の一つは、「梨泰院クラス」(他の2つは、「愛の不時着」と「賢い医師生活」)と、『人生を変えた韓国ドラマ』(光文社新書、2021.1)の著者・藤脇邦夫が書いている。確かに、私が韓国ドラマを見るようになった契機は、ドラマ「梨泰院クラス」である。

その「梨泰院クラス」の日本版ドラマ「六本木クラス」が、先週7月7日(木)夜9時のTBSで始まった。

第1回を見ての感想は、①かなり丁寧に作られたドラマ ②「梨泰院クラス」に似せて作っている ③同じ音楽が日本人のバンドの演奏で流れている。オリジナル韓国版の方が迫力がある。④わざわざ、韓国で成功したドラマの日本版を作る意味はなんだろうなどである。ネットで、その解説や感想を見てみた。

<2020年に動画配信大手「Netflix」で配信されブームを巻き起こした人気韓流ドラマ「梨泰院(イテウォン)クラス」をテレビ朝日が竹内涼真を主演に迎えリメイクした「六本木クラス」(木曜後9・00)の第1話が7日に放送された。作品タイトル「六本木クラス」がツイッタートレンド1位になるなど注目度の高さを示した。/ SNS上には多くの反響が寄せられた。「ほぼほぼ原作通りの展開。悪くない」「観たけど、端折られてるとこ多いな」「案外よかったな。余計なオリジナル要素追加したりしてなかったし、キャスティングもなかなか。」挿入歌は“超豪華”全4曲!本家「梨泰院クラス」のカバー曲もサプライズ披露

この「六本木クラス」が、Netflixで見ることができるとわかった。もちろん放映済みの部分だけだが、Netflixだとコマーシャルなしで見ることができる。日本版を作った意味があるのかどうかは、これからの展開次第であろう。

3話まで見た限り、とてもいい出来のドラマだと感じた。プロデューサー(監督)、主演者がいいのだと思うが、舞台の六本木のおしゃれな街の雰囲気もドラマを引き立てている。韓国ドラマ「梨泰院クラス」の核心の場면을きちんと押さえ、それを日本の役者で再現している。よく出来たカバー曲を聴くような心地よさを感じる。この日本版ドラマは、オリジナルなドラマを繰り返し見るのとは違った楽しみがある。(2022年7月9日)